



1 オオツタノハ製貝輪

いかわづ
伊川津貝塚(田原市)
縄文時代晩期 田原市博物館蔵

オオツタノハは南西諸島や伊豆諸島南部の潮の荒い断崖絶壁の岩場にくっついて生息する貝。オオツタノハ製貝輪は全国で約 200 点見つかり、うち 26 点が渥美半島で出土している。この貝輪は伊豆諸島産を使ったと考えられる。やや小さく腕輪として使われたか不明だが、中央に穴を開け表面や縁を丁寧に磨いて作られており、成形で赤い色や筋状の模様もよく残る優品。



写真提供 佐賀県文化課文化財保護室

2 イモガイ製横型貝輪

吉野ヶ里遺跡(佐賀県吉野ヶ里町)
弥生時代中期末 佐賀県文化課文化財保護室蔵

南西諸島のサンゴ礁に生息する大型のイモガイ製の腕輪で、貝 1 個から貝輪 1 点しか作ることができない。この 11 点の貝輪は吉野ヶ里遺跡で前漢の鏡と共に甕棺墓かめかんぼに葬られた熟年女性が、左腕にはめた状態で出土した。この女性は右腕にも 25 個のイモガイ製貝輪を身につけており、集落でも特別な地位にあったと考えられている。



写真提供 佐賀県立博物館

3 ゴホウラ製立岩型貝輪

たていわがた
三津永田遺跡(佐賀県吉野ヶ里町)
弥生時代中期後半 個人蔵(佐賀県立博物館寄託)

ゴホウラは南西諸島のサンゴ礁の水深 10~20m に生息する巻貝。弥生時代に男性用の腕輪に使われ、着用者の高い身分を示すとされている。時期や地域により多様な形の貝輪が作られており、これは立岩型と呼ばれる型式のもの。この資料は墓から出土しており、表面に赤い水銀朱が付着している。愛知県内でゴホウラ製貝輪の出土例はないが、極めてよく似た有鉤銅釧ゆうこうどうくしろという青銅器の腕輪が名古屋市さんのうやまの三王山遺跡から 2 点出土している(本展で出陳)。



写真提供 唐津市教育委員会

4 巴形銅器

佐賀県指定重要文化財
さくらのぼほ
桜馬場遺跡(佐賀県唐津市)
弥生時代後期 唐津市教育委員会蔵

スイジガイがモデルとされる巴形銅器は魔除けの意味を持ち、盾などの装飾に使われたと考えられている。この資料は末廬国王墓まつろとされる桜馬場遺跡から出土した 5 点中の 2 点で、立体的な優れた造形と良好な保存状態が当時の高い青銅器製造技術を示す。